



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1933, 13(144): 162-163

ISSUE DATE:

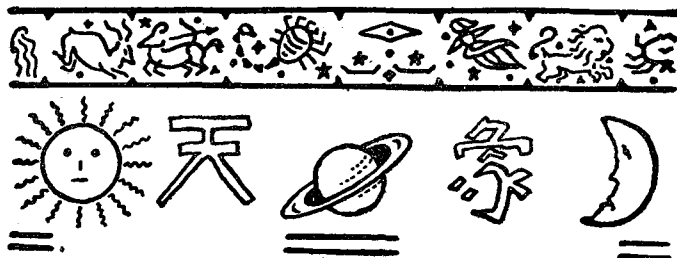
1933-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162332>

RIGHT:

一九三三年
(昭和八年)



三

月

(花山天文臺)

I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	太陽			月				月の相
	日出	(星座)	日没	月齢	月出	(星座)	月没	
日	時分		時分	日	時分		時分	
1	5 45	(う を)	6 18	5.5	9 11	(う し)		☾上弦 3日14時56分
6	5 38	〃	6 22	10.6	14 9	(し し)	3 17	☾満月10日22時38分
11	5 31	〃	6 26	15.5	19 55	(をとめ)	5 42	
16	5 24	〃	6 30	20.5	0 35	(い て)	10 11	☾下弦17日13時17分
21	5 18	(ひつじ)	6 34	25.5	3 30	(みづかめ)	15 40	●新月25日 3時38分
26	5 12	〃	6 38	0.8	5 45	(ひつじ)	20 38	
翌1	5 7	〃	6 42	5.8	9 50	(ふたご)	0 5	

II——著 し き 天 象

4 月	5日	4時——	水星の停留
	6日	9時——	水星が降交點
	7日	12時11分	火(北 $2^{\circ}46'$)と月と合
	7日	23時18分	海(北 $1^{\circ}1'$)と月と合
	8日	12時36分	木(北 $2^{\circ}26'$)と月と合
	10日	22時38分	満 月
	13日	19時——	火星の停留
	14日	3時——	天王星が太陽と合
	15日	16時——	金(南 $39'$)と天と合
	16日	15時——	水星が遠日點
	18日	21時18分	土(北 $1^{\circ}16'$)と月と合
	20日	16時——	水星離角(西 $27.25'$)
	22日	1時——	金星の外合
	22日	22時47分	水(南 $5^{\circ}41'$)と月と合
	24日	11時 3分	天(南 $4.45'$)と月と合
	25日	9時35分	金(南 $5^{\circ}40'$)と月と合

四月の夜の天空

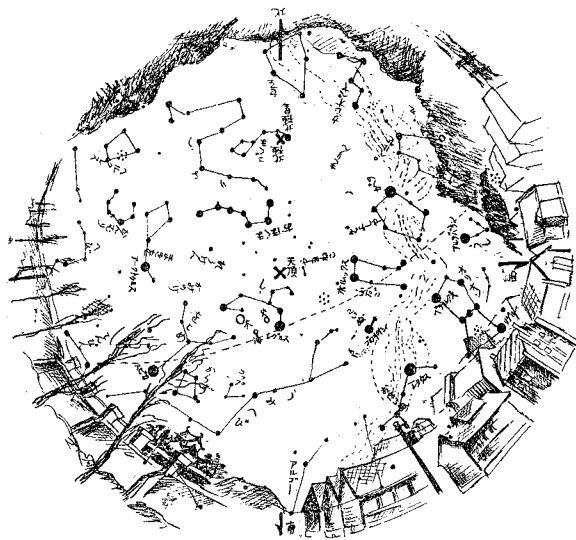
(恒星時 Sidereal Time 10時)

日本の中央部(京阪神地方)で

4月1日ならば午後9時。 15日ならば午後8時

東京は約15分早く、福岡は約20分遅く現はる

但し時刻は日本中央標準時



春 四 月 の 空

冬の星々は、没するともなしに霞の中へ消え去つてしまふ。西の空には「大犬」のシリウスがまたゝいて、「オリオン」の眠つた場所をきし示してゐる。「牡牛」は赤い目をこちらにむけて、沈んでいつた。夜も更けて人の皆寝静まつた頃、下界を見守りながらおりてゆくのは、カストルとポルックスの「双子」神である。

「獅子」が天頃のあたり一面に張り、東には純白な「乙女」がすでに高く、「天秤」も少し傾きながら昇ってくる。天の東半分は長いものゝ世界で、南には可愛い「鳥」の四邊形をのせて「ヒドラ」がずるずるとはひ出して來たところである。東には「蛇」がその曲りくねつた體をはやのぞかせてゐる。北には、北斗と「小熊」との間を縫つて淡い「龍」がそれからそれへと續いてゐる。

銀河は低くなつてしまつたけれども、「まきを」の首星アクトウルスが既に東にあつて、大きな圓を畫いて天頂めがけてぐんぐん登つてゆく様は、北斗の廻轉と相まつて何と雄大なながめであらう。

著しい星座にまじつて、微にきらめく星座も特別に美しい。天の奥底迄見透せる様な「獵犬」や「かみのけ」、北極を守るりょうの全貌は天の最大傑作であらう。